

i land fill

Vol. 16

特集

泉大津沖埋立処分場は、「ハヤブサ」の教育現場!

ハヤブサもフェニックス利用中!!



ハヤブサと言っても、昨年話題になった小惑星探査機『はやぶさ』ではありません、鷹の仲間で絶滅のおそれのある国内希少野生動物種に指定されている猛禽類の「ハヤブサ」のことです。

全国的に珍しく、泉大津では数年前から市内のビルに営巣していることが確認されています。このたびNHK番組「ダーウィンが来た!生きもの新伝説」の取材を通して「ハヤブサ」が泉大津沖埋立処分場を利用していることを知ることができました。

「ハヤブサ」は、一度つがいになるとどちらかが死ぬまでずっと一緒に暮らす、とても仲のいい鳥です。上空でハトやムクドリ等の小鳥が現れるのを待ち、最大時速200kmから300kmで急降下して追いかけ、鋭いツメとクチバシで捕えて食べる習性があります。また、一番速く飛べるところから、「はやつばさ」「ハヤブサ」と呼ぶようになったとの説があるようです。

さて、この「ハヤブサ」、毎年5月から6月ごろ孵化し、6月下旬から7月にかけて巣立ちします。巣立ちした幼鳥は、ひと月程は親から餌をもらいますが、その後自分で捕食するために、泉大津沖埋立処分場で大いに腕を磨き、立派な成鳥に育っていきます。

こうした食物連鎖の頂点にいる猛禽類「ハヤブサ」は、ただ生息数が少ないから貴重というだけでなく、生物の多様性を守るという点からも大切であるということを学びました。都会に生きる「ハヤブサ」にロマンを感じ、そして、廃棄物を適正に処分してこそ、身近な自然を守ることができ、「ハヤブサ」を守ることにつながることも大切なことと改めて実感しました。皆様はいかがでしょうか?

(今回取材のあった「ダーウィンが来た! 生きもの新伝説」の放送は、11月20日の予定です。なお、放送日は変更の場合があります。)



写真提供:山田悦三氏

A.

できた新しい土地は、公園や駐車場の用地、倉庫や建物を建てる用地、港湾関連用地、緑地に利用されたり、また、コンサートやイベントに活用されるなど有効に利用されます。

字 ぼう!

【フェニックス埋立処分場と搬入基地の学生見学会レポート!!】 ～神戸沖埋立処分場～



処分場内の説明



スライドによる説明

7月14日(木)と21日(木)、大阪工業大学工学部環境工学科の学生(3回生約80名)による施設見学会が行われました。その時の様子をご紹介します。

処分場での最後の見学場所の排水処理施設では、排水処理の目的、作業手順、排水管理基準の数値などの説明にも熱心に耳を傾けていました。

現地までのバスの車内で、当センターのDVDを見ていたとき、到着後は、スライドショーにより、事業の内容・ごみの流れ・3R活動・神戸沖埋立処分場の説明などを行い、いよいよ処分場へと船に乗って移動します。慣れない救命道具やヘルメットを着用して船に乗り込み、約20分程で到着。

ここ神戸沖埋立処分場では、これまでフローティングコンベアを使って、船から揚陸した廃棄物を処分場全体に均一に埋立てを行っていましたが、最近では埋立てが進み、底が浅くなっているのでフローティングコンベアの使用は一部のみになり、主にダンプでの埋立作業をしています。その様子を併せて確認していただきました。

展望場所からは、処分場全体の大きさや位置関係などもわかつたと思います。今回は残念ながら船から廃棄物を揚陸している作業は見ていただく事ができませんでしたが、日頃、見慣れない処分場内を

熱心に見学して、写真撮影をされる方もいらっしゃいました。この展望場所からは、海の環境や生物に配慮して建設された緩傾斜護岸が眼下に確認でき、天気が良い時は大阪沖埋立処分場や関西国際空港まで見ることができます。

処分場での最後の見学場所の排水処理施設では、排水処理の目的、作業手順、排水管理基準の数値などの説明にも熱心に耳を傾けていました。

約40分程の処分場見学を終え、沖から戻ると次は神戸基地(搬入基地)見学です。基地では、受付ゲートやストックヤード(ごみを一時保管する場所)、投入ステージと順に案内し、特に投入ステージの廃棄物を船に積み込むための投入口では、皆さん興味津々と覗き込んでいました。神戸基地のストックヤードの屋根には太陽光パネルを配しており、太陽光発電の説明を行って日程終了となりました。盛りだくさんの見学でしたが、学生の皆さんのがんばりが伝わってきました。

【一般見学のお問い合わせ】

処分場	実施日	申込・お問合せ	電話
泉大津沖埋立処分場	毎月第1・第3火曜日	大阪建設事務所 (泉大津分室)	0725-31-0929
神戸沖埋立処分場	毎月第2火曜日	兵庫建設事務所	078-881-0761
大阪沖埋立処分場	毎月第2・第4火曜日	大阪建設事務所	06-6613-6417

*定数になり次第締め切りいたします。
※尼崎沖埋立処分場は実施していません。
※団体での見学については、本社総務課(06-6204-1721)へお問い合わせください。

大阪湾フォーラムでフェニックス事業を紹介

平成23年2月26日(土)、関西国際空港で開催された「第7回ほっといたらあかんやん!大阪湾フォーラム」でフェニックス事業と海域環境改善への取組みを紹介しました。

エアロプラザ2階のフォーラム会場では、「つながる・つなげる大阪湾」をキャッチコピーに、NPOなどの日頃の活動がポスター・セッションやパワーポイントを使って報告されました。センターもフェニックス事業の仕組みや処分場での海域環境再生・創造への取組みを紹介しました。

また、関空探検ぐるっと360度大阪湾では、関空2期島からの大阪湾の展望と大阪湾海中映像の上映があり、このために撮影された大阪沖埋立処分場の緩傾斜護岸と泉大津沖埋立処分場の工コ岸壁の様子

が映し出され、海藻が繁茂し魚が泳ぎまわる姿を多くの人に見てもらうことができました。



台湾環境省視察団との技術交流



台湾環境保護署(環境省)張子敬副署長(副大臣)を団長とする11名の視察団が7月25日(月)・26日(火)に、当センターの埋立処分場、搬入基地の視察そしてセンター職員との技術交流、意見交換のため来日しました。

今回の来訪は、平成22年3月の台湾側からの要望によるセンターとの意見交換を踏まえ、実際に現地での環境管理、保全技術、埋立施工技術、各種制度など、より専門的な技術交流を深める場となりました。台湾においても廃棄物の最終処分場の確保が重要な課題となっており、センターで行っている跡地利用も考えた最終処分場、そして近畿2府4県168市町村が共同して取り組んでいることに大変興味を持って頂きました。

台湾も大阪湾圏域と同様、海上に最終処分場を求めざるを得ない状況です。そのためにもお互い3R活動の推進によるごみを減らす取組みが一番大切と確認し合いました。



第3回『生ごみ処理機』

皆さんの家庭から出る生ごみは、水分量が多いため輸送、焼却にかかるコストが大きくなっていることをご存じでしょうか。

ごみの減量化対策としての取組みとして、一部の自治体では生ごみ処理機購入に補助金を出すなどの普及活動を行っています。

生ごみ処理機は大きく区分すると二種類あり、微生物により生ごみを分解するバイオ式と、温風等により生ごみを乾燥させて減量化する乾燥式です。バイオ式生ごみ処理機のメリットは、堆肥ができるため、ガーデニング等に利用できます。また、電気代等のランニングコストが安価です。デメリットは、屋外設置のものが多いこと、寒冷地では利用できないことがあります。

乾燥式生ごみ処理機のメリットは、室内で設置できる、手間が少なく短時間で減量化できる、寒冷地でも使用できることなどが挙げられます。デメリットは、電気代が高くなることです。3Rの観点では、水分を除去するだけなので、廃棄物の減量化にはつながらないこともあります。

処理機の購入に関する自治体の助成制度については、2万円～3万円のところが多く、近畿地方では、大津市、京都市、東大阪市、姫路市、奈良市、和歌山市などで実施しています。

※詳しくは各市のホームページをご確認ください。

・生ごみ処理機のしくみ(バイオ式)・



環境イベントで会いましょう!!

当センターは、近畿2府4県168市町村から排出される廃棄物を安定的かつ安全に処理することにより、市民生活の環境保全に大きな役割を果たしています。

そこで、府県や市が開催する環境イベントと連携し、スライドショーやDVDの放映を通して、広くセンター事業の紹介を行っています。そのひとつで昨年12月11日～12日開催の「京都環境フェスティバル2010」



京都環境フェスティバル2010(スライドショーの模様)

では、「ごみ」のゆくえのおはなし」と称したスライドショーにたくさんのご参加をいただき、フェニックス事業に対する理解を深めていただくことができました。

今年も各地の環境イベントと連携していくので、ぜひ最寄りの環境イベントにご参加いただきますようお願いいたします。オリジナルグッズのプレゼントを用意してお待ちしています。

イベント名	主催者	開催日	開催場所
ひょうごエコフェスティバル2011	兵庫県	10/15～16	メリケンパーク
びわ湖環境ビジネスメッセ2011	滋賀県	10/19～21	長浜ドーム
リサイクル・フェア	伊丹市	10/29	スワンホール体育館
エコアートフェスタ大阪2011	大阪市	10/29～30	天保山ハーバービレッジ
第14回奈良県環境フェア	奈良県	11/5	東大寺総合文化センター
京都環境フェスティバル2011	京都府	12/10～11	京都パレスプラザ

※環境イベントの詳細は、主催者にお問い合わせください。

第8回 共生の森植樹祭に参加



平成23年2月27日(日)に、堺第7-3区で開催された共生の森植樹祭に、当センターも参加しました。堺第7-3区は、フェニックス埋立処分場と同じく、産業廃棄物を埋め立てて出来た土地です。「共生の森」とは、この土地で、府民・NPO・企業・行政など多様な主体が協働しあい、自然の力を活かしながら長い時間をかけ、森林空間などの自然環境を創出する取組みです。

センターは、「共生の森」に隣接して搬入基地を保有しており、また、「共生の森」は処分場である堺第7-3区を含む周辺地域の環境改善にもなることから、「企業による森づくり連絡調整会」のメンバーとして、この森づくりに協力しています。

当日は2月にもかかわらず春の陽気を思わせる晴天の中、約500名の参加者が共生の森のシンボルである「ちぬみ山」で、約900本の苗木を植えました。





持続可能な廃棄物処理システムの確保のために

いなむら かずみ
尼崎市長 稲村 和美

平成23年3月11日に発生した東日本大震災により亡くなられた方々のご冥福をお祈り致しますとともに、被災された皆様に対しまして心よりお見舞い申し上げます。

これまで、尼崎市は兵庫県やさまざまな団体からの要請を受けて、被災地支援を行ってまいりました。今後も引き続き県及び周辺各市と連携を取りながら、応援要請に対し、できる限りの対応をしてまいりたいと考えております。

尼崎市は、兵庫県の東南端に位置しており、市域は49.97 km²を有し、南は大阪湾に面し、東は大阪市と隣接、西は武庫川をはさんで西宮市、芦屋市そして神戸市へと繋がる兵庫県の東の玄関口として、利便性に優れた住環境を有した産業都市です。

戦後の高度経済成長期には阪神工業地帯の一翼を担い、昭和45年には人口55万人を超えるなど、工業都市として大きな発展を遂げてきました。しかしながら、その後の日本経済の構造変化と共に人口は減少し、現在では45万2千人と兵庫県下では神戸市、姫路市、西宮市に次ぐ4番目の都市となっています。

工業化を遂げた一方で、本市は深刻な大気汚染問題、尼崎公害訴訟や近年明らかになったアスベスト問題など、多くの課題を抱えることとなりましたが、これまで、市民の皆様とともに、その困難を克服し、また克服すべく取り組みを進めており、コンパクトで持続可能なまちづくりを目指し、公害防止に向けた施策や環境に対する市民・事業者との協働による「尼崎21世紀の森プロジェクト」の実施など、産業、交流、学びの拠点として「成長から成熟へ」向けた再生への取り組みを展開しています。

廃棄物行政に目を転じると、今年3月に本市では平成

32年度を目標年度とする一般廃棄物処理基本計画を策定したところです。この計画では、基本理念として「循環型社会と低炭素社会を両立した効率的かつ持続可能なごみ処理システムの構築」を掲げております。これまでの市民、事業者が主体となって廃棄物の減量・分別・リサイクルに取り組む施策に加え、環境負荷の少ない持続可能な都市を目指す長期的指標とするため、地球温暖化や資源の枯渇といった地球規模での諸問題を踏まえ、既存の施設や人材といった本市保有の資産を経済性や効率性に配慮しながら有効活用できる取り組みを行っていくこととしています。しかしながら、たとえ廃棄物の処理技術やリサイクル手法が発達し廃棄物の減量化が進んだとしても、最終処分のための埋立処分場は必ず必要となります。行政として、市民生活から生じた廃棄物を適正に処理する責務を果たすため、安全で安定した廃棄物最終処分場を継続的に確保することは必要不可欠なことです。

本市は、大阪湾圏域広域処理場整備計画へ当初から参画し、臨海部に尼崎沖埋立処分場と9つある搬出基地のひとつとして尼崎基地が設置されるなど、大阪湾域の自治体としてその責務を果たしてまいりました。しかしながら、大阪湾圏域広域処理場整備計画における現状の2期計画では、平成33年度までの供用埋立処分は確保できているものの、その後の計画は未確定な状況です。本市同様、参画している168市町村にとって、今後も安定して廃棄物行政を推進していくためには、最終埋立処分場の確保は必要不可欠です。

次期(3期)計画の早期実現による最終処分場の継続した確保に向け、大阪湾フェニックスセンターに期待するところです。

編集後記

大阪湾フェニックスセンターでは、自らの責務として、環境負荷を可能な限り低減していくためのマネジメントシステムとして、環境省が推進している環境活動評価プログラム「エコアクション21」の認証を取得し、オフィス業務では、節電、廃棄物排出量の削減、グリーン購入を推進し、事業所業務では業務の特性に応じた目標を設定し環境配慮活動に取り組んでいます。

各ご家庭においても、いま一度、身近な取り組みとして節電や3R(リデュース・リユース・リサイクル)活動を推進し、環境配慮に取り組んでいきましょう。

ご意見ご感想がございましたら、右記のE-mailアドレスまでお寄せください。

(編集スタッフ一同)

i land fill Vol.16

発行: 大阪湾広域臨海環境整備センター
 フェニックスセンター
<http://www.osakawan-center.or.jp>
 〒530-0005
 大阪市北区中之島2-2-2 大阪中之島ビル9階
 TEL 06-6204-1721(代)
 FAX 06-6204-1728
 E-mail phoenix@osakawan-center.or.jp
 i Land Fill は当センターホームページにも掲載しております。

VEGETABLE
OIL INK [2011.10]